

**京都府子育て支援審議会・京都府少子化対策審議会
第3回合同審議会 開催結果**

日 時 令和元年10月18日（金曜日） 午後1時～午後3時

場 所 ルビノ京都堀川 平安の間

出席者 秋田委員・足立委員（代理：高島氏）・伊藤委員・岩前委員
内山委員・大久保委員・岡崎委員・木村委員・櫛田委員・楠委員
定本委員・杉本委員・高岡委員・田中(美)委員・中田委員・奈良部委員
野々村委員（代理：長澤氏）・平野委員・福井委員・松井委員・松田委員
森岡委員・安田委員・山本委員・吉貞委員

議事内容

**(1)「京都府子育て支援計画（仮称）」中間案（素案）の検討について
（主な意見）**

□出会い・結婚期

- ・法律婚に加え・事実婚など多様な形がある。また、男女ともにキャリアの向上が求められる中、未婚率が高まってきている。さらに、女性にとって、20代は妊娠しやすい時期ではあるが、社会的には結婚が難しい時期となっている。そのため対策はなかなか難しい問題であり、幅広い対策が必要である。
- ・結婚の形に関わらず平等にサービスが受けられるよう、まず行政から各種制度を見直していくと世の中の認識が変わっていくのではないか。

□妊娠、出産期

- ・シングルマザーの産後、特に1～3か月の支援が大切。また、里帰り出産した女性が、一日中赤ちゃん向き合い、子育てに大きな不安を感じることもあり、支援が必要。
- ・妊娠中や産後の不安に適切に対処するためには、自身の体の変化や、子どもの発達、パートナーとのコミュニケーションづくりなどについて予め学ぶ機会が必要。
- ・妊産婦・子育て世代のメンタルヘルス対策も重要。適切に対応できる仕組みをつくれば生活の質の改善につながり、少子化対策としても有効と考える。
- ・妊産婦支援は、どうしても母子保健の色合いが濃くなるが、妊産婦だけでなく家族全体への支援という形で考える必要もある。

□保育・幼児教育期

- ・認定こども園は、保育園と幼稚園の両方の機能を兼ね備え、子育て支援センターの役割も担う重要な施設。全国で6,100ほどあり、ますます増えていく。幼稚園・保育所のみならず認定こども園につけても、計画にしっかりと位置づけるべき。
- ・病児保育について、保育所では実施できないのか。いろいろと難しい面はあるが、保育所の有効活用の視点を持ち、考えることも必要ではないか。
- ・病児保育や休日保育などの空き状況がインターネットでわかるようなシステムがあれば、安心して子育てできる環境づくりにつながる。

- ・府内のどこに住んでいても、休日保育のサービスが受けられるよう整備を進めてほしい。
- ・これから妊娠・出産を迎える若い世代たちに対し「ぜひ子育てを楽しんでもらいたい」というような積極的なメッセージを発信してほしい。
- ・海外から働きに来られる子どもをもつ外国人に対する支援策についても、計画に入れるべき。

□子育て期

- ・安価で住むことができる子育て世帯向けの住宅整備を進めてほしい。
- ・学校で赤ちゃんに触れあう事業も始められているが、子ども自身が自己肯定感を高め、自分の命や相手の体を大切にできるような教育も必要。
- ・計画は大人の視点に加え、子ども自身が健やかに育つという視点も加えるべき。
- ・放課後児童クラブを利用していない子どもを対象とした「地域の居場所」も作る必要がある。
- ・ネット社会であふれる情報に左右され、不安を過度に感じないように、コンセンサスが取れている正しい育児情報を集約・発信すべき。
- ・多様な家庭があることを踏まえた上で、全ての家庭が安心して子育てできるような経済的・精神的な支援策を考えるべき。
- ・内閣府のひきこもり対策の検討に参加しているが、男性のひきこもりが多く、120万人とも言われている。ひきこもりの解消により、結婚の希望等が叶うよう取組の強化が必要。

□子育てにあたたかい気運の醸成

- ・保育の無償化が始まったが、3歳までは自分で育てたいと考える親もいる。様々な選択肢がある中、京都で子育てをしてよかったと思えるようにしてもらいたい。
- ・今の若い世代では生活レベルを落としてまで、子どもを生みたくないと考えている。税制面や所得保障など、メリットが実際に感じられる経済的支援策を考えられないか。
- ・ライフデザインカレッジやワークチェンジ塾など、アプリを使って講座を受けることができれば、若者の意識改革や気運の醸成につながる。
- ・病児保育の充実は大切である一方で、子どもの立場から考えれば、病気の際は、家庭で面倒を見てもらえることが良いのでは。そのような場合には気兼ねなく休みが取れる社会にしてほしい。
- ・若者にとってSNSの影響力は上の世代が思うよりも大きくなっており、子育て等に関する信頼できる情報発信が大切。また、多くの取組が進められるが、府で行うこと、市町村が行うことなどがわかる書きぶりが必要と考える。